# 第3章 計画の目標

### 1. 計画の基本理念

私たちの住む半田市は、知多半島の中央部に位置し、南吉童話にも描かれた美しい里山や海、川に代表される豊かな自然を背景に、山車、蔵、赤レンガ建物など歴史的・文化的資源が数多く存在しています。産業面においては、1戸当たりの乳用牛飼育頭数が全国的にも上位である畜産業や長い歴史を持つ酢や酒などの醸造業、衣浦臨海工業地帯の製造業などが地域経済を支えています。また、中部国際空港や衣浦港を活用した物流拠点としても、今後、一層の経済活動の発展や活性化が期待されます。

しかし一方で、私たちの暮らしや産業活動に伴って発生する環境問題は、地域や地球の将来にとって重要な課題です。なかでも地球規模の温暖化は、本市のみならず、世界共通の問題であり、各主体が一体となって温室効果ガスの排出抑制に取組む必要があります。また、私たちの生活に最も身近なごみに関しては、発生を抑制するとともに再利用・再生利用を徹底する、いわゆる3Rによる減量対策を一層推進していく必要があります。

快適な市民生活を維持するとともに、良好な環境を将来にわたって継承していくことは、次世代に対する私たちの責務です。このためには、市民、事業者、行政それぞれが、環境について考え、行動するとともに、3者が協働し、環境に配慮したまちづくりを推進していかなければなりません。また、環境に関する取組みは、多岐にわたり、様々な分野と密接な関わりを持っています。横断的かつ広域的な考えでの事業展開を図り、知多半島におけるリーダーシップを発揮する必要があります。

本計画では、このような問題意識のもとに、次の3項目を基本理念として掲げます。

- 1. 自ら進んで環境への負荷を低減し、 良好な環境を将来に引き継ぐまちづくりを推進します。
- 2. 自然、景観、歴史的・文化的環境資源を保全・創造し、 市民が誇れる半田らしいまちづくりを推進します。
- 3. 知多半島の中核都市として、広域的な環境保全に寄与する取組みを展開します。

### 2. 基本理念を実現するための5つの柱

本計画の基本理念の実現には、市民、事業者及び行政が協働して、環境負荷の少ない社会を形成していくことが必要です。基本理念の実現のために、以下の5つの 柱を設定します。

### ●ひ と

#### 「ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち」

大気や水質などを良好な状態に維持することで、人の健康や生活環境の保全を 図り、市民が安心して暮らすことのできるまちづくりを進めます。

### ●地 球

#### 「地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち」

温室効果ガスの排出を抑制するとともに、ごみ減量・リサイクル等により環境への負荷を低減し、持続可能なまちづくりを進めます。

### ●自 然

### 「豊かな自然を守り、自然と共生するまち」

河川・ため池・農地など身近な自然環境を保全することで、生物の多様性及び 生態系の適正な維持を図り、自然と共生するまちづくりを進めます。

## ●ふるさと

### 「美しいふるさとと、歴史や文化を大切にするまち」

地域の歴史的・文化的環境資源を保全・継承し、美しく半田らしい景観の整備を図ることで、歴史や文化を大切にするまちづくりを進めます。

### ●参加・協働

#### 「みんなで環境を守り育てるまち」

各主体が良好なパートナーシップを形成し、環境学習や環境保全活動への参加・協働を通じて、みんなが環境を守り育てるまちづくりを進めます。

### 3. 計画の体系

基本理念の実現に向けて、5つの柱ごとの基本的な考え方を設定します。



### ひとにやさしく、快適な環境で安心して暮らせるまち

- 1-1 公害のない安心・安全な暮らしの確保
- 1-2 快適な市民生活環境の確保

#### 地球環境を守り、持続可能な社会を目指すまち

- 2-1 温室効果ガス排出量の削減
- 2-2 資源循環型社会の構築
- 2-3 環境に配慮した事業活動の展開

#### 豊かな自然を守り、自然と共生するまち

- 3-1 うるおいのある緑・水空間の整備
- 3-2 生物多様性の保全
- 3-3 環境面からの農業振興

### 美しいふるさとと、歴史や文化を大切にするまち

- 4-1 美しく半田らしい景観の整備
- 4-2 歴史的・文化的環境資源の保全と継承
- 4-3 ゆとりややすらぎ、活気のある空間の整備

### みんなで環境を守り育てるまち

- 5-1 環境学習の推進
- 5-2 市民・事業者・行政による良好なパートナーシップの形成

#### 重点施策

- 2. 3 R の推進
- 1. 地球温暖化対策の推進 4. 事業活動に伴う環境負荷の低減
  - 5. 畜産業の臭気対策の推進
- 3. 広域的なごみ処理の推進 6. 協働による環境学習の推進